

疎の関係の人物への依頼場面で使用される許可求め表現に関する実態調査

辻岡咲子

「(して)もらって(も)いいですか」のようなモラウ系許可求め表現の使用場面を明らかにするために、若年層 30 名を対象に、記述式と選択式の 2 種類のアンケートを期間を隔てて実施し、それらの回答の比較を行った。

設定した場面は、①上下関係(目上と目下)の有無、②役割関係(学生と先生、客と店員)の有無、③人間関係の継続性の有無により、(1)／(2) (3) (4)／(5) (6)の 3 つに区別される。

場面設定	上下	役割	継続性
(1) ゼミの先生に対して論文の添削を頼むとき	あり	あり	あり
(2) ホテルのカウンターでスーツケースを預かってもらうよう頼むとき	なし	あり	なし
(3) 飲食店で注文したデザートがいつまで待っても出て来ないため持ってくるよう頼むとき	なし	あり	なし
(4) インターネットで購入した DVD が破損していたため、電話で商品の交換を頼むとき	なし	あり	なし
(5) 荷物で手がふさがっているため、エレベーターで初対面の目上の人に階数ボタンを押してもらうよう頼むとき	あり	なし	なし
(6) 電車の中で初対面の目上の人に対して席をつめて座るよう頼むとき	あり	なし	なし

①上下関係が優先的に意識される場面(1)では、敬語形イタダクを用いた表現が使用され、モラウ系許可求め類の表現は、許容されにくいのが、記述式アンケートの結果から、「お願いしてもいいですか」の使用が広がっていることがわかった。②役割関係が意識される場面(2)～(4)では、選択式アンケートの結果によるとモラウ系許可求め類の表現は許容されるが、依頼表現として既に定着している表現の使用の方が妥当とされる。③人間関係の継続性と役割関係が生じない場面(5) (6)では、記述式アンケートの結果とあわせて見て、モラウ系許可求め類の中でも「(して)もらって(も)いいですか」が非常に選ばれやすいということが明らかになった。